

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 広島県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	県立高陽高等学校 1, 2学年全員（517名）、保護者（2名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ①教科名（ 特別活動（LHR） ） ②行事名（ オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業 オリンピック講演会 ）
4 目標 （ねらい）	学校でオリンピック・パラリンピック教育を実施することで、オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進し、児童生徒のスポーツに対する学びを深める。
5 取組内容	・北京オリンピックメダリスト宮下純一氏を講師としてお招きし、「出会いに感謝～思い続けたオリンピック～」をテーマに講演の実施。 ・講演内容の理解を深めるため事前学習として、1年生（2年生は1年次に既習）には体育理論の「オリンピックムーブメントとドーピング」の単元において、スポーツの意義について学習した。
6 主な成果	・講演会終了後にアンケートを行い、以下の結果となった。（ ）内は昨年の数字 【質問1】2020年 東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか。 非常にそう思う 64%（76%） ややそう思う 31%（22%） あまりそう思わない 4%（1%） まったくそう思わない 1%（1%） 【質問2】オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか。 非常にそう思う 65%（73%） ややそう思う 30%（25%） あまりそう思わない 4%（2%） まったくそう思わない 1%（1%） 【質問3】2020年 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦について、あなたはどのように考えていますか。あなたの気持ちにもっとも近いものを1つ選んでください。 試合会場に行って観戦したい 26%（46%） パブリックビューイングなどで多くの人と一緒に観戦したい 2%（3%） 自宅のテレビなどで観戦したい 58%（40%） テレビなどでたまたま目に入れば、観戦するかもしれない 12%（9%） 関心があまりない 2%（3%）

	<p>【質問4】障がい者を含めた多くの市民とともに生涯にわたってスポーツに対して自ら進んで参加したいと思えましたか。</p> <p>非常にそう思う 38% (50%)  ややそう思う 51% (39%)  あまりそう思わない 9% ( 8%)  まったくそう思わない 2% ( 2%)</p> <p>【質問5】スポーツを通して、自分で考えて行動する力を身につけたり、仲間との人間関係を構築したりすることができると思いますか。</p> <p>非常にそう思う 74% (72%)  ややそう思う 24% (25%)  あまりそう思わない 1% ( 2%)  まったくそう思わない 1% ( 1%)</p> <p>【自由記述】</p> <p>「スポーツに対する考え方は、勉強や人間関係にも同じものがあると思った。賞などを取ることでできる人は、才能だけじゃなくて、それに負けない努力があるからこそなんだろうなと思いました。それほど夢中になれるものはいいなと思った。」</p> <p>「私はスポーツが得意なわけではないが、それでもオリンピックを見るととても感動した。その感動を与えてくれるオリンピック選手の方にあえてとてもうれしかったし、またそういった遠い存在であるオリンピックでさえ、私たちと同じように迷ったり、悩んだりするんだと思うと、自分もしっかり悩んだ上で進路選択をしようと勇気づけられた。」</p> <p>「今日の授業でのお話から、スポーツをする意味を深く知り、学ぶことができました。スポーツをすることは、自分の力を高め、自己記録を更新して記録を残していくことはもちろん、そのスポーツを続けていく中で多くの人々に出会い、支え合うことでより成長につながる事が分かった。」</p> <p>・生徒アンケート結果から、ほとんどの生徒の2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に留まらずオリンピック・パラリンピック、ひいてはスポーツの意義や価値等に対する理解・関心を高める事ができたと考えられる。また、スポーツの域を超え、高い目標をもって努力することの大切さなど、自分自身の生き方における教訓とした生徒が数多く見られた。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>・導入として、事前に保健体育科授業(体育理論)でオリンピックの意義についての指導を行った。</p>
8主な課題等	<p>・保健体育科授業はもちろん、他の教育活動との関連が少なく、今回の取組が単発に終わっている感が否めない。学校の教育活動全体と今回の取組の関連を調整する必要があるが、年度途中での希望調査のため、総合的な学習の時間等、すでに昨年度末に計画が立てられている教育活動に計画を変更して実施することは困難である。</p> <p>・1時間程度の講演会のみでは、これ以上の展開を図ることが難しい。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>・総合的な学習の時間との関連を検討。</p> <p>・保健体育科授業でのスポーツの意義や価値等に対する理解・関心をより一層深めるプログラムの開発。</p>